

【投信調査室コラム】

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

日本版ISAの道 その99

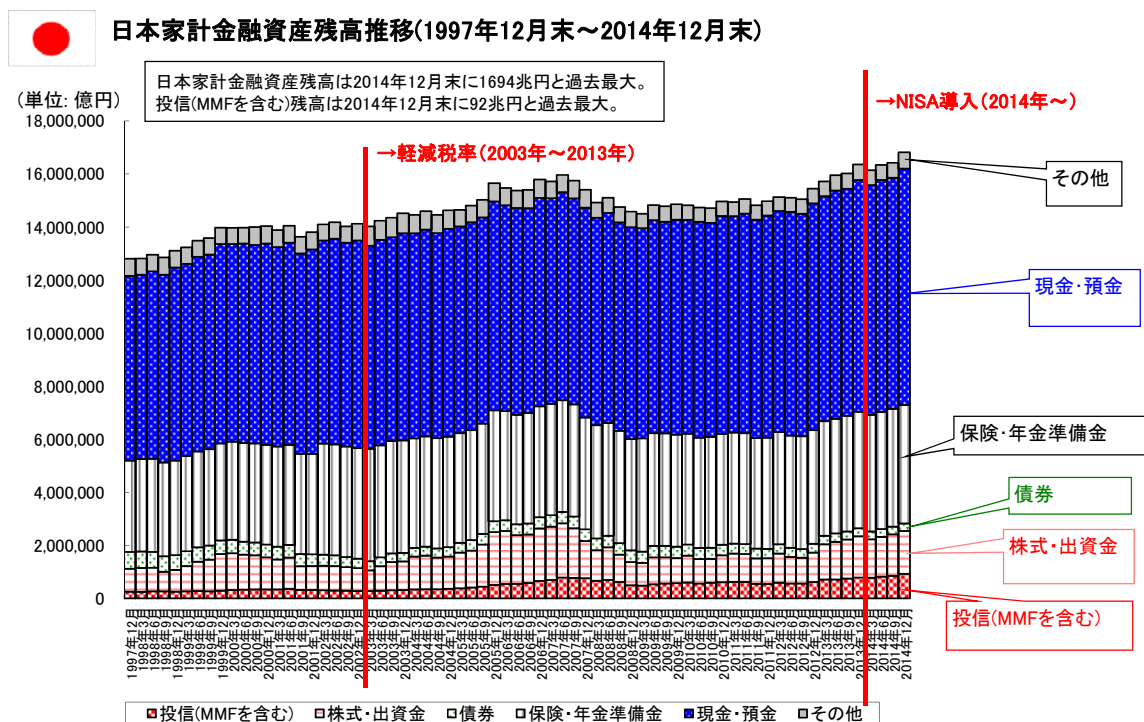
日英米で個人マネーも投信も過去最大! 日本はNISAがまだ0.2%の寄与だが、英国はISAが4.1%の寄与で、米国はIRAが11%もの寄与!!

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

- ✓ 先週は NISA や監督指針改正などで起きた変化を投信手数料や分配金利回り、トータルリターン観点から見た(2015年4月20日付日本版ISAの道 その98~URLは後述[参考ホームページ])。
- ✓ 今週は投信だけではなく、年金、そしてNISA全体を含む個人マネー(家計金融資産)を見る。日本を見た後、日本がNISAで範とする英国を見て、最後に、投信超大国で、日本が日本版401kと日本版IRAで範とする米国を見る。
- ✓ 日本の個人マネーにNISAは2.8兆円/0.2%(うち投信2兆円/0.1%)の寄与とまだまだ小さいが、英国の個人マネーに株式型ISAは45兆円/4.1%(うち投信35兆円/3.2%)の寄与となっており、米国の個人マネーにIRAは892兆円/11%(うち投信425兆円/5.2%)もの寄与となっている。
- ✓ 日本より「貯蓄から投資へ」の流れが進んでいる英米の個人マネーからして、日本もNISAと個人型DC等の寄与による一層の個人マネー増加が期待される。

日本の個人マネーにNISAは2.8兆円/0.2%(うち投信2兆円/0.1%)の寄与

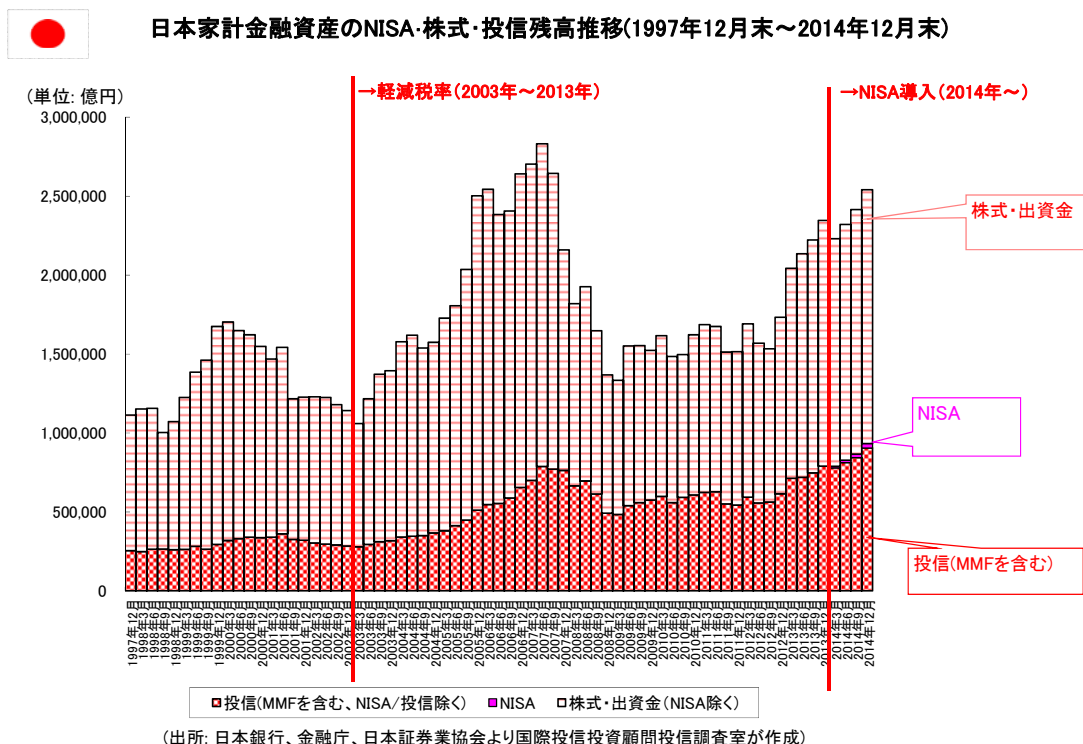
まず日本の個人マネー(家計金融資産)を見る。日本の家計金融資産残高は最新の2014年12月末で1694兆円と過去最大を更新しており、投信(MMFを含む)残高は2014年12月末に92兆円とやはり過去最大を更新している。共に2014年6月末から3四半期連続の過去最大更新である。株価上昇や円安による外貨上昇による所が大きい。



(出所: 日本銀行より国際投信投資顧問投信調査室が作成)

少額投資非課税制度(日本版 ISA=NISA)を見るべく、前頁グラフを株式と投信だけで見て、そこから NISA の分を引き、NISA を別途加えたのが下記グラフである。日本の個人マネーに NISA は 2.8 兆円/0.2%(投信 2 兆円/0.1%)の寄与(下記※1 参照)。

2014 年に始まったばかりで、まだかなり小さな存在ではあるが、大手証券会社 10 社による NISA の月間買付額は、2014 年 12 月に 2234 億円と過去最大を更新、2015 年に入ってから NISA への資金流入は増えている(2015 年 1 月は前月を上回る 2627 億円と NISA 開始以来で最大、2 月は 1813 億円、3 月は 1993 億円と 2014 年 12 月を除くどの月をも上回る買付額となっている～2015 年 3 月 9 日付日本版 ISA の道 その 93 参照～URL は後述[参考ホームページ])。現在の日本の個人マネーの大きさからしても、NISA のさらなる拡大が期待される所だ。



※1: 「NISA 口座の利用状況に関する調査結果の公表について(平成 26 年 12 月末時点)」…

金融庁によると、2014 年 12 月末時点での総購入額 2 兆 9769 億 6913 万円(①)。総残高(時価)2 兆 7977 億 8542 万円(②)、総売却額 4012 億 9483 万円(③)、課税口座への払出し額 3 億 9887 万円(④)、総受取配当金額(配当金、普通配当金及び特別配当金の合計額)1234 億 7732 万円 (⑤)で、②から⑤までの合計である残高・払出し(売却)額・配当金合計が 3 兆 3229 億 5644 万円(⑥)。①マイナス⑥が 3459 億 8732 万円で、投資利回りは 11.6%となり、これが NISA を通じた投資の利益となる。

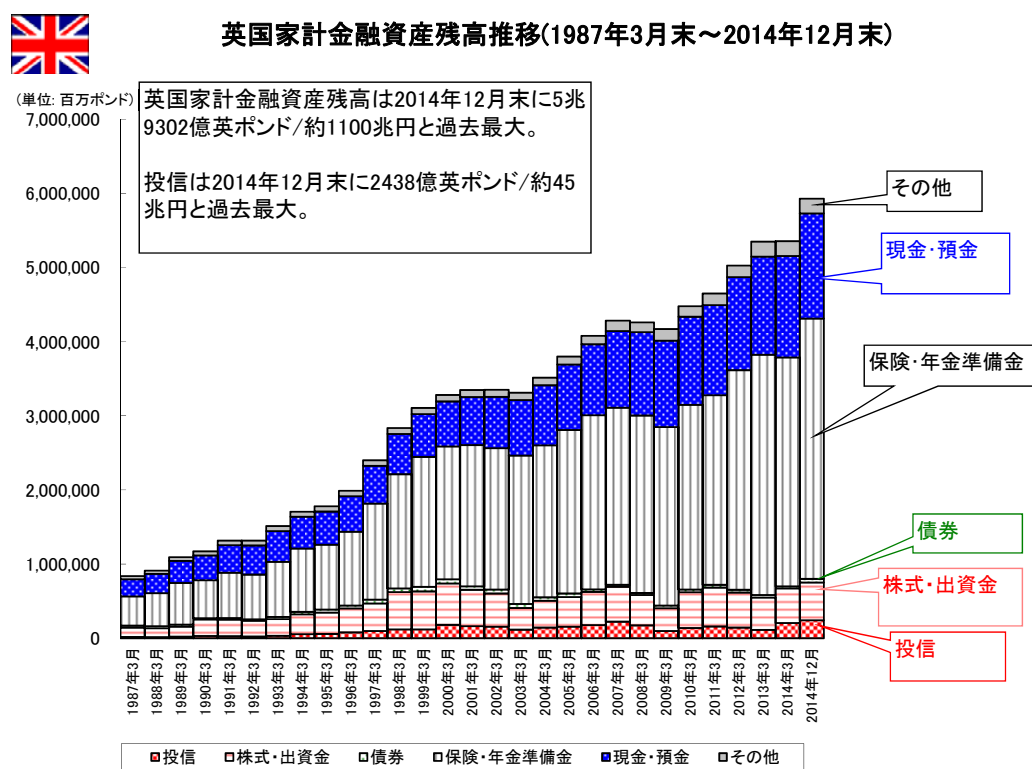
上記②の NISA の総残高(時価)2 兆 7977 億 8542 万円について、そのうち、投信は 1 兆 9803 億 6844 万円と全体の 70.8%を占めており、株式等は 8174 億 1699 万円と 29.2%となっている(=株式 7596 億 1389 万円/27.2%+REIT295 億 575 万円/1.1%+ETF282 億 9735 万円/1.0%)。上記グラフがそれを反映したものであるものの、2014 年 12 月末以外の四半期残高については投信調査室の推計となっている。

さらなる詳細は 2015 年 4 月 24 日付金融庁「NISA 口座の利用状況に関する調査結果の公表について(平成 26 年 12 月末時点)」を参照の事(URL は後述[参考ホームページ])。

英国の個人マネーに株式型 ISA は 45 兆円/4.1%(うち投信 35 兆円/3.2%)の寄与

次に英国である。英国家計金融資産残高は 2014 年 12 月末に 5 兆 9302 億英ポンド/約 1100 兆円と過去最大を更新しており、投信残高は 2014 年 12 月末に 2438 億英ポンド/約 45 兆円とやはり過去最大を更新している。日本と同様に個人マネーも投信も過去最大を更新している。

ただ英国では、投信が(株式・出資金も)家計金融資産増加に寄与しているようには見えない。英国の「投信」の 2438 億英ポンドは英国家計金融資産 5 兆 9302 億英ポンドの 4.1%、一方、日本の家計金融資産約 1694 兆円に占める「投信」は 92 兆 4757 億円で 5.5% (2014 年 12 月末現在)。「欧米に比べて低い」と言われる日本家計金融資産の「投信」比率 5.5%は、英国家計金融資産の「投信」比率 4.1%より高いことになるのだ(2013 年 10 月 7 日付日本版 ISA の道の 30 参照～URL は後述[参考ホームページ])。



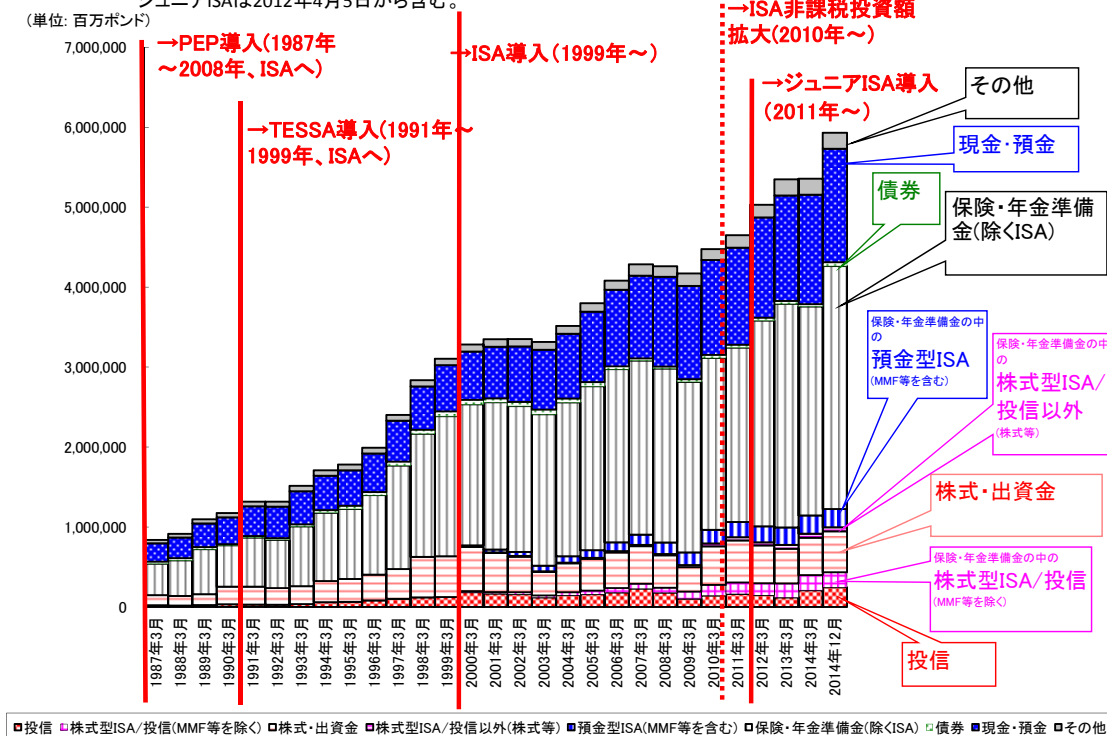
(出所: 英政府統計局/ONSより国際投信投資顧問投信調査室)

だが、英国家計金融資産残高は、堅調に増加している。実はこれは「保険・年金準備金」の寄与によるところが大きく、ここに日本の NISA が範とする英国 ISA /Individual Savings Account(個人貯蓄口座)が含まれている。そこで、英国の「保険・年金準備金」について、「保険・年金準備金(除く ISA)」、「預金型 ISA(MMF 等を含む)」、「株式型 ISA/投信以外(株式等)」、「株式型 ISA/投信(MMF 等を除く)」と分けて見ることにする。それが次頁のグラフである。日本では 2014 年 1 月に NISA 開始で、2016 年から未成年者向けのジュニア NISA が始まるが、英国 ISA は 1999 年に導入(アダルト ISA)、2011 年 11 月からジュニア ISA が始まっている。



英国家計金融資産残高推移(1987年3月末～2014年12月末)

*ISAのデータは2000年4月5日からであり、2009年4月5日からISAにPEPのデータが含まれている。
ジュニアISAは2012年4月5日から含む。



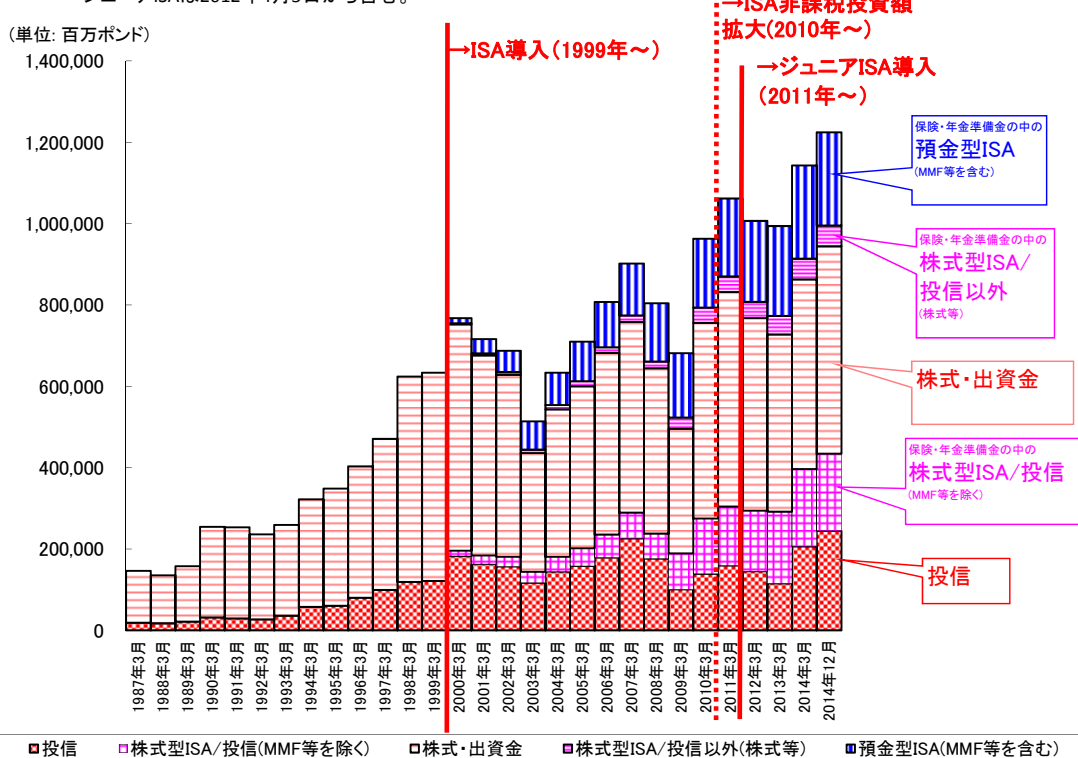
2014年に「株式型ISA」の残高は2414億英ポンド/約45兆円と英国家計金融資産の4.1%を占め、その「株式型ISA」の中に含まれるISAの投信(MMF等を除く)、つまり「株式型ISA/投信(MMF等を除く)」は1903億英ポンド/約35兆円と英国家計金融資産の3.2%を占める。英国家計の「投信」は4.1%と言っても、ISAの投信(MMF等を除く)が3.2%あり、合計すると、英国の家計が保有している投信は英国家計金融資産の7.3%と過去最高を更新しており、日本の5.5%より高くなるのである。

要は、家計が直接保有している「投信」は1988年6月末の0.9%から2000年3月末の過去最高5.6%まで上昇した後、低下傾向にあり、2013年3月末に2.2%となったのだが、1999年にISAが導入されて、そのISAの投信(MMF等を除く)比率が2000年3月末の0.4%から2014年3月末の過去最高3.6%まで大きく上昇している。こうして英国家計金融資産残高が過去最大となったわけで、英国ではISAが株式・出資金や投信に代わって家計金融資産増加に寄与していることとなる。

次頁のグラフは上記グラフから「現金・預金」と「保険・年金準備金(除くISA)」等を除きISA・株式・投信だけで見たものである。英国家計が直接保有している「投信」残高が概ね横這う中、ISAの投信(MMF等を除く)の増加傾向がわかるだろう。

 **英国国家計金融資産のISA・株式・投信残高推移(1987年3月末～2014年12月末)**

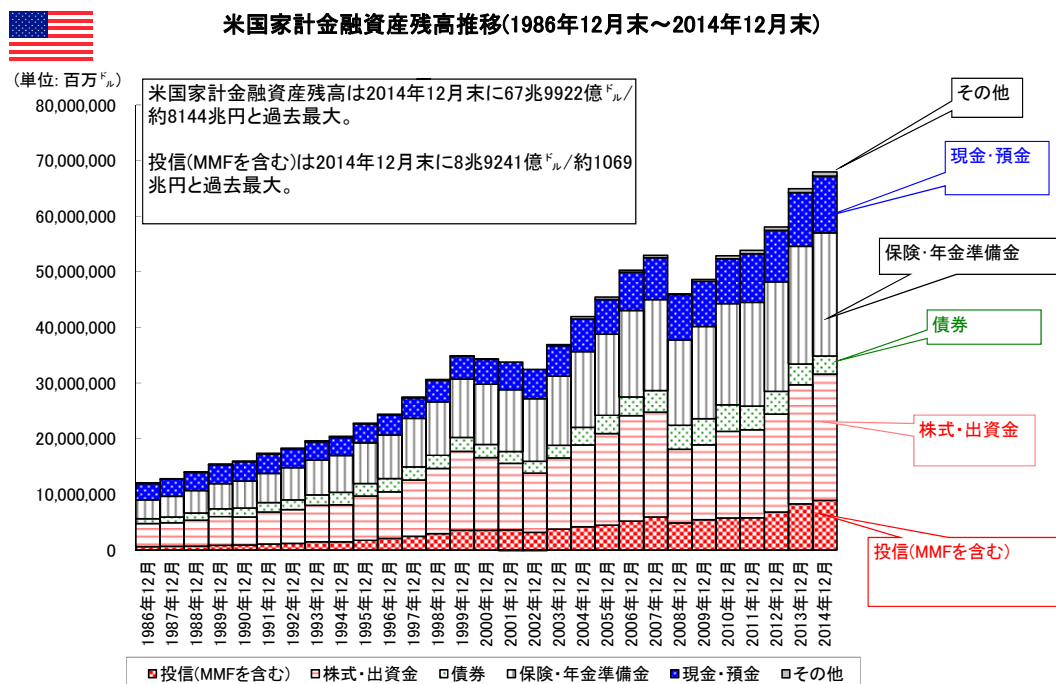
*ISAのデータは2000年4月5日からであり、2009年4月5日からISAにPEPのデータが含まれている。
 ジュニアISAは2012年4月5日から含む。



(出所: 英政府統計局/ONSおよび英国歳入関税庁/HMRCより国際投信投資顧問投信調査室が作成)

米国の個人マネーにIRAは892兆円/11%(うち投信425兆円/5.2%)の寄与

最後に投信超大国で、日本が日本版401kと日本版IRAで範とする米国の個人マネーである。



(出所: 米連邦準備制度理事会/FRBおよび米投信協会/ICIより国際投信投資顧問投信調査室が作成)

前頁グラフは、米国家計金融資産残高推移だが、2014年12月末に、米国家計金融資産残高は67兆9922億ドル/約8144兆円と過去最大を更新しており、投信残高は8兆9241億ドル/約1069兆円とやはり過去最大を更新している。日本と同様に個人マネーも投信も過去最大を更新している。

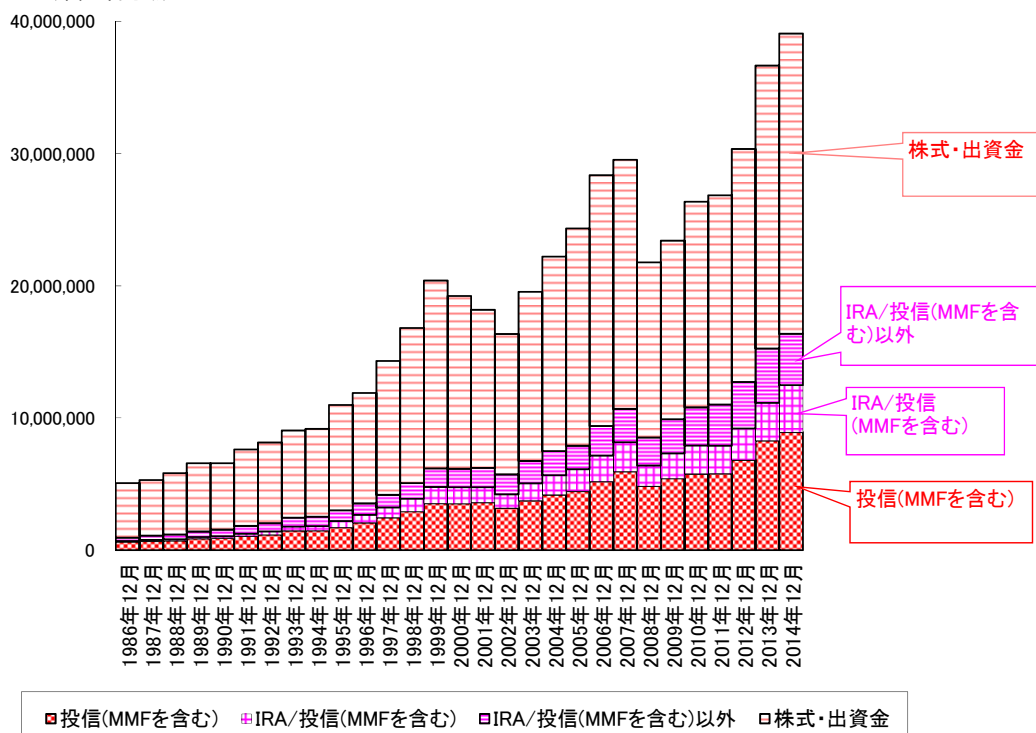
米国の個人マネーが2014年末に過去最大になったが、この増加は、株価の上昇に加えて、IRA(Individual Retirement Account、個人年金貯蓄優遇税制)の寄与も大きい。米投信協会(the Investment Company Institute、ICI)によると、2014年12月末時点で、IRAは家計金融資産の11%を占め、20年前の5%から上昇していると言う(URLは後述[参考ホームページ])。

家計金融資産の中でのIRAを見る。IRAは「IRA/投信(MMFを含む)」と「IRA/投信(MMFを含む)以外」に分けて見る。前頁下段グラフから、現金・預金や債券などを除き、IRA・株式・投信だけで、より見やすくしたのが下記グラフだ。IRAの残高は2014年12月末に7兆4430億ドル/約892兆円と過去最大となっている。うち、「IRA/投信(MMFを含む)」の残高は2014年12月末に3兆5460億ドル/約425兆円と、やはり過去最大だ。米国の個人マネーにIRAは892兆円/11%(投信425兆円/5.2%)の寄与となる。

米国家計金融資産のIRA・株式・投信残高推移(1986年12月末～2014年12月末)

*IRAのデータは1981年12月30日から年末、2006年12月31日から四半期であり、ここでは年次。

(単位: 百万ドル)



(出所: 米連邦準備制度理事会/FRBおよび米投信協会/ICIより国際投信投資顧問投信調査室が作成)

日本で加入対象者の拡大等の拡充策が行われる事になっている個人型確定拠出年金(DC)は、米国の従来からあるIRAを参考に提唱されたものである事から(2013年6月10日付日本版ISAの道 その15参照~URLは後述[参考ホームページ])、現在の米国の様なIRAの寄与もまた日本で期待されている。

日本より「貯蓄から投資へ」の流れが進んでいる米英の個人マネーからして、日本も NISA と個人型 DC 等の寄与による一層の個人マネー増加が期待される

日本より「貯蓄から投資へ」の流れが進んでいる米英の個人マネーからして、日本も今後、NISA と個人型確定拠出年金(または日本版 IRA)の両輪で、個人マネー(家計金融資産)の過去最大に一層の拡大が期待される。もちろん、それには株価等の影響が大きいし、数々のハードルはあろう。米国 IRA は米ベビーブーマー(1946～1964 年生まれ)の退職で既に膨れ上がっていた 401k 積立金からの移管(ロールオーバーIRA)があった。英国 ISA は 2008 年から ISA の前身である PEP(Personal Equity Plan、個人持ち株制度、1987 年～)を吸収し、さらに 1991 年～1999 年に開設された TESSA(Tax-Exempt Savings Account、特別貯蓄口座)も吸収してきた。加えて、米国 IRA や英国 ISA の様な非課税投資額増大などの優遇措置拡充も必要であろう。ただ、アベノミクスと 2020 年東京五輪、そして、金融庁と財務省の「貯蓄から投資へ」の流れへの力の入れ方が強い事あり、今後の個人マネー増加は十分ありえると思われる。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

【参考ホームページ】

2015 年 4 月 24 日付金融庁「NISA 口座の利用状況に関する調査結果の公表について(平成 26 年 12 月末時点)」…

「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150424-1.html>」、2015 年 4 月 22 日付日本証券業協会公表の主要証券会社 10 社 NISA 口座利用状況…

「http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/kaiken_h27.html」、2015 年 1 月 27 日付米投信協会(the Investment Company Institute、ICI)「The Role of IRAs in U.S. Households' Saving for Retirement, 2014」…「<http://www.ici.org/pdf/per21-01.pdf>」、2015 年 4 月 20 日付日本版 ISA の道 その 98

「NISA や監督指針改正などで投信の変化は起きたか?～日米の投信手数料・分配金利回り・トータルリターン徹底比較と世界の投信手数料比較～」…

「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150420.pdf>」、2015 年 3 月 9 日付日本版 ISA の道 その 93「NISA 口座、半数が休眠-投資初心者「何買えば…」? 2 月の売れ筋はやはり REIT ファンドで、それ以外はグローバル債、アセットアロケーション柔軟型、日本株のファンド!!」…

「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150309.pdf>」、2015 年 3 月 2 日付日本版 ISA の道 その 92「英国の 4 月効果、米国の 1 月効果、日本は何月効果?～英国の ISA は今まさに「冬」で、来たるべき「春」、「ISA シーズン」へ向けて準備をしている所～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150302.pdf>」、2013 年 11 月 25 日付日本版 ISA の道 その 36「米英で個人マネー(家計金融資産)残高過去最大に寄与した米国 IRA と英国 ISA! 日本でも期待される NISA(日本版 ISA)と日本版 IRA の寄与による日本の個人マネー過去最大!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/131125.pdf>」、2013 年 11 月 18 日付日本版 ISA の道 その 35「NISA(日本版ISA)の次、非課税の積み立て型私的年金制度『日本版 IRA!』～本家・米国における IRA の動向について、401k や 529 プラン、その投信保有状況も含めて見る～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/131118.pdf>」、2013 年 10 月 7 日付日本版 ISA の道 その 30「日本が英国のようになるのであれば長期で家計の保有する投信は 100～200 兆円超、NISA の投信は 60～100 兆円になる?」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/131007.pdf>」、2013 年 6 月 10 日付日本版 ISA の道 その 15「日本版 ISA と日本版 401k と日本版 IRA の使い分け～英国 ISA と米国 IRA(トラディショナル IRA とロス IRA)の融合～」…

「<https://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130610.pdf>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。